

子どもの手作り地図の紹介

日野市立第七小学校（元多摩第二小学校）

西原美枝子

3年生のときから2年間にわたって蚕を飼育しました。3年生では、理科との関連で飼育をはじめました。蚕がかわいくてたまらず、授業中も机の上に置いてという子どももいる状況でした。ほんの少しだけ蚕蛾、産卵と観察し、あとの繭は冷凍庫に入れる旨を提案すると、子どもたちからたいへんな抵抗の声。たくさん産卵させて来年も育てる、という頼もしい決意に、私はたじろいでしまいました。（繭は太い絹糸にしてミサンガを編み、飼育後を楽しみました）

約束をはたすべく、4年生でも、^ま座^た繰^り体験をするという目的で蚕の飼育に取り組みました。

2年間の蚕の飼育で苦労したことは、桑の葉の確保でした。自分の通学路の範囲の中でしか探さない子どもたちに、桑の木がある場所を示す地図があればよいのにと思い続けていました。そこで、環境地図展に向けて、学区の桑の木調査をアドバイスしたところ、2年間の苦労があっただけに、子どもたちは“役立つ地図”を作ろうとやる気十分、学区域地図を手し、暑さと闘いながら調査をすすめていきました。

地図にまとめる段階では、蚕の飼育は3年生であり、3年生がわかる地図であることをアドバイスしました。絵地図のイメージが決まると、作業は楽し

「二小のくわの木マップ」（表紙掲載）

いらしく、どんどん進行していきました。

この地図作成は、子どもたちが桑の木調査を貫徹できるかどうかにかかっていると思いました。広い学区、しかも暑い暑い時期でしたが、よく歩きました。途中の公園で遊んだり、豆腐屋さんに立ち寄って昔のようすを聞いたり、おまけの楽しいこともありましたが、「二小のくわの木マップ」とともに思い出すのは、ギラギラの太陽です。

作成者の話：多摩第二小学校 阿部萌樹、穴戸美桜、澁谷朋実、田尻奈々、奈良知華子、西木夏帆、林香里、森 奈優

4年生になり私たちはかいこを育てていたので、くわの葉が必要でした。私たちの知らないところにもっとあるかもしれないと思い、6、7月の暑い土曜日に、二小の学区を地域別に探し歩きました。そしてくわの木マップにまとめることにしました。暑くて、水筒に入れた氷もすぐに溶けてしまうほどでした。でも、苦しいことばかりではありませんでした。くわの実が実っている木もあって、見ることも食べることもできて、うれしかったです。一番の思い出は、台風が接近している日に全員で最後の仕上げをしたことです。できあがったときは、疲れが吹き飛ばすような気持ちでした。かいこを育てる次の学年に、このマップを見て、くわの木がどこにあるのか参考にしてもらえたらとてもうれしいです。